



農業士会だより

No.123



会長挨拶

会長・巻ブロック 永塚 崇嗣



平成30年度から新役員体制となり1年が経ちました。ブロック長・理事をはじめ、会員皆様のご理解とご協力のもと年間の各行事を盛大に行えたことや、新潟県経営普及課・新潟県農林公社や各関係機関におかれましては強力なバックアップにより支えて頂いていることに感謝申し上げます。

平成が終わりを迎え5月から新元号「令和」となります。新しい風と共に農業界も明るい話題が増えていけばいいと思います。その中でも、G20農業大臣サミットが新潟県で開催されることにお祝い申し上げます。各国の農業問題があると思いますが、それぞれの意見を調和させ、より良い世界農業・食文化を広げられる会議にして頂き、私たち農業従事者の繁栄となる政策をお願いしたいです。

新潟県農業は大きく転換しようとする中で、主食用米に頼らず園芸も普及推進させる流れとなっています。それに加え、畜産の発展をしていくという「三本足」を県は掲げています。経営の中で、いかにヒントを得るかはそれぞれの行動次第ですが、農業士会にとっても会員皆様にいろんなメニューを提供できるよう、行事や話題を作っていきたいと役員一同頑張っております。忙しい中でも時間にゆとりを持たせ、ぜひ行事に参加して頂ければと思います。

会員同士や関係者とともに意見を出し合い、それぞれの経営発展や協力し合いの地域活動を盛り上げて頂き、農業の素晴らしさを広めていきたいです。

これから春作業がはじまり収穫までの道のりが続いています。体調管理に気を付けて頂いて「令和元年」を最高の年になるよう頑張っていきたいと思います。



平成30年度青年農業者・指導農業者・農村地域生活アドバイザー
「認定式」 知事励ましの言葉(副知事代読)

本日、青年農業者・指導農業者・農村地域生活アドバイザーに認定された皆様に、お祝いを申し上げます。皆様には日ごろから本県農業の振興と発展に御協力をいただき、感謝を申し上げます。

さて、御承知のとおり、人口減少など農業を取り巻く状況が大きく変わり始めています。県といたしましては、担い手が将来展望をもつて経営できるように、コシヒカリだけではなく、業務用米等を含めた多様な米づくりに加え、水田を活用した園芸導入を積極的

に推進し、米の一本足打法からの脱却を図ってまいりたいと考えております。

また、新潟と聞けば、質の高いもの、心豊かになるもの、そういうものをイメージできる「新潟ブランド」として位置付けて世の中に出していきたいと考えております。

そういった思いから、農業においては、新潟が誇るコシヒカリや新之助などの新潟米や、越後姫やルレクチュ、枝豆などの園芸作物、にいがた和牛などの畜産物等のブランド力を高めるとともに、大都市圏での流通・消費を拡大する地産地消に取り組み、地域間競争に打ち勝ち、付加価値の高い農業を

実現すべく、施策を推進してまいりたいと考えております。

加えて、担い手確保・育成のため農業教育環境の整備や経営資産の円滑な継承を進めてまいりたいと考えておりますので、本日認定されました皆様におかれましても、認定を機に、それぞれの創意工夫により経営の発展を図るとともに、地域のリーダーとして後継者育成等に、より一層取り組んでいただくことを期待しております。

結びに、皆様方のますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、挨拶いたします。

平成31年1月16日
新潟県知事 花角 英世(代読)

令和元年度新潟県農業士会
役員・ブロック長名簿

役 職	ブロック	氏 名
会 長 ・ 理 事	巻	永 塚 崇 嗣
副会長・理事	長 岡	新 谷 梨恵子
副会長・理事	十日町	大 津 貴 夫
事務局長・理事	燕三条	須 佐 徳 人
会 計 ・ 理 事	新発田	大 倉 翼
作 物 部 会 長	長 岡	小 林 弘 志
作物副部会長	村 上	石 栗 勝 義
園 芸 部 会 長	新発田	本 田 充
園芸副部会長	新 潟	笠 原 秀 夫
畜 産 部 会 長	新 津	渡 辺 崇
監 事	新発田	岡 田 友 幸
監 事	魚 沼	関 裕 也
理 事	村 上	増 田 嘉 宏
理 事	新発田	坂 井 与 史
理 事	新発田	小 熊 彦 史
理 事	新 潟	田 村 長 康
理 事	新 潟	近 藤 正 貴
理 事	新 潟	大 岩 和 正
理 事	新 津	阿 部 治
理 事	長 岡	伊 藤 一 郎
理事・ブロック長	柏 崎	杵 渕 隆 則
理 事	魚 沼	八 木 慎 太 朗
理 事	南魚沼	南 雲 裕 樹
理 事	十日町	北 村 公 太 郎
理 事	上 越	長谷川 力
理 事	佐 渡	葛 西 大 樹
ブ ロ ッ ク 長	村 上	本 間 賢 二
ブ ロ ッ ク 長	新発田	姉 崎 信 弘
ブ ロ ッ ク 長	新 潟	加 藤 喜 一 郎
ブ ロ ッ ク 長	巻	河 治 勇 輔
ブ ロ ッ ク 長	新 津	瀬 倉 祥
ブ ロ ッ ク 長	燕三条	飯 塚 英 晃
ブ ロ ッ ク 長	長 岡	竹 内 剛
ブ ロ ッ ク 長	魚 沼	瀧 澤 大 樹
ブ ロ ッ ク 長	南魚沼	高 村 智 也
ブ ロ ッ ク 長	十日町	島 田 福 徳
ブ ロ ッ ク 長	上 越	大 滝 和 弘
ブ ロ ッ ク 長	佐 渡	土 屋 智 徳

新認定式、歓迎会に参加して

長岡ブロック

新潟県青年農業士理事

伊藤 一郎

農業士に認定されたのはわずか3年前。認定式に出席した時、知っている人がほとんどいない会場に緊張し、顔が引きつっていたのを覚えています。

そして、歓迎式では大津さん（現副会長）の農業の話なのか何なのかわからない基調講演に緊張感がほぐれ、1人で大笑いしていたのが昨日の事の様です。

そして、今度は私が県の理事になって、迎える側となりました。

新認定者歓迎会ではカメラマンを担当していた私は、皆さんが緊張しないような雰囲気を作る事を第一に考えて、話しかけたり、なるべく笑顔を写真に収めるようにしていました。

そして、新谷副会長が考案した数々のイベントで新認定者を温かく迎える事が出来ました。各ブロック長とのお見合い回転寿司、学生が主体で仕掛けたフラッシュモブ、花角知事が懇親会同席など、新認定者にとっては、青年農業士がどれだけ歓迎されているかを知ると共に、自分達への期待や責任の大きさを実感出来たに違いありません。『青年農業士になって良かった』と、私自身が思っているように、新認定者の皆さんもこの日を境に、これからの新潟県を支える農業士として、スイッチが入ったのではないのでしょうか？



専門部会活動

平成30年度肥料・農薬・農業機械メーカーとの情報交換会

作物部会長・長岡ブロック

小林 弘志

今年度で7回目となる「肥料・農薬・農業機械メーカーとの情報交換会」が、7月11日燕三条地場産業振興センターで開催されました。

今年度は、会員71名、農業士OB 4名、関係機関・団体17名、一般参加17名、各メーカー55社81名の参加がありました。

そして今回は「メーカーと農業者をより強くつなぎ、より密な関係を築こう」をコンセプトに今回の企画はマン

平成30年度青年農業士 新加入者名簿

番号	ブロック	市町村	氏 名	部門
1	新発田	新発田市	佐藤 亮 司	作物
2	新発田	新潟市北区	荒木 祥 史	作物
3	新津	新潟市秋葉区	わかづき かなめ 要	作物
4	新津	五泉市	おおはし とも あき 晃	畜産
5	新潟	新潟市西区	さいとう 藤 日 だか 高	園芸
6	燕三条	三条市	まるやま りょう 亮 太	園芸
7	燕三条	燕市	くさの 野 よし 芳 博	作物
8	長岡	三条市	ひろかわ けん いち 一 健	作物
9	長岡	長岡市	かとう 藤 げん 弦 太	作物
10	長岡	長岡市	まるやま いちのすけ 市之助	園芸
11	長岡	小千谷市	こいずみ かず ひろ 弘	作物
12	南魚沼	南魚沼市	いたばし かな まさ 正 和	作物
13	南魚沼	南魚沼市	いまむら まさ 将 哉	作物
14	十日町	十日町市	みずしな かず や 也	園芸
15	柏崎	柏崎市	とびた あき 明 とし 俊	園芸
16	上越	上越市	たけうち たか のり 紀	園芸
17	上越	糸魚川市	さいとう 藤 しょう 省 吾	作物



ネリ化にならないためにも、昨年とは内容を変え外部講師や講演会の時間を利用し、各メーカー様の「一押し商品のPRタイム」を取り入れました。この企画は土壌改良、農薬と農業機械、肥料の3部に分け各部門のメーカー7社から4分間商品をPRしてもらうものです。

平成30年度肥料・農薬・農業機械等メーカーとの情報交換会に参加して

燕三条ブロック
新飯田 康之

今年も肥料・農薬・農業機械等メーカーとの情報交換会に参加させていただきました。限られた時間の中で、全てのブースを回って細かくお話しさせていただくことはなかなか難しいですが、以前紹介いただいた商品の実証結果や問題点を密に情報交換ができました。また新たな商品を提案頂き31年の生産において試してみたい商品にも出会うことができ、有意義な時間を過ごせたと思っています。

メーカー様からしてみればもう少しPRする時間があつたら良かったなあと個人的には思いました。しかし、今回を土台にしてこれからも継続できたいと感じました。

そして、ご協力して頂いた各メーカー様には改めて御礼を申し上げます。

しかしながら、ギャラリイがいまいち少なかったのが残念のような気がします。やはり初めての試みのことでもあったのもあるとおもいます。しかし、継続していけばなんとかなるかとおもっています。

今回の情報交換会は、役員改選後で初めての開催で私もこの企画が果たしてうまくいくか不安でした。しかし、限られた時間の中で役員一丸となつてやってきたので成功できたと思います。またこのイベントにご協力、参加していただいた各メーカー様様としてお忙しい中足を運んでくださった皆様

毎年のように新たな問題点が見つかり、頭を悩ませる中、このイベントに参加しメーカーの皆様また会員の皆さんとの情報交換会は大切な場となっております。31年においてもまた問題点は出てきます。

その問題を抱えて私は31年度の情報交換会に参加するでしょう。

そして新しい情報を手に帰ります。ベロベロに酔っても忘れないように（笑）まだ参加したことのない会員の方にはぜひ参加をお勧めします。きつと問題解決のヒントがそこにはありますよ。



本当にありがとうございました。私自身この企画運営に携えて良かったと思います。次年度はどのようなイベントになるか楽しみです。また、今回参加できなかった方、次回はお越しできますようよろしくお願いいたします。来て良かったと思うかもしれません。

オール感謝祭に参加して

佐渡ブロック 土屋 智徳

11月7日新潟モノリスで女性異業種、指導農業者、漁業士、林業士の人達が参加した合同感謝祭としてオール感謝祭が開催されました。

今回のオール感謝祭は昨年までの収穫感謝祭に異業種交流と三士会交流を加え三部構成で行われた今までにないものでした。

第一部の異業種交流会は、始めに二階から登場した異業種の方々、そこから設置してある各ブロックの異業種席に行き自己紹介をしていただき、そこで各々の将来の夢や地域活性化に対する考え方の話が聞けました。話を聞いていて私も一生産者として互いに関係する者として良い方向に進んでいけるよう頑張っていかなければと思いに駆られました。時間の都合もあり全員の話聞くことが出来なかったのが残念でしたがとても活気のある交流だったと思います。

第二部では参加した三士会である農業士会、林業士会、漁業士会の会長が各々の思いを語って頂きました。どの士会も後継者問題は深刻にとらえており、考えさせられた一面でした。

第三部の感謝祭兼異業種三士懇親会では、家族への感謝の言葉ではなく女性異業種ゲストに告白する場面で、新発田市地域おこし協力隊の日野夢奈様が夫妻で参加されていて、まさかの夫



からの告白という展開となり盛り上がりしました。
また、なぜか罰確定の私から会員の荒川さんに対する告白？もありましたがとても楽しい思い出になりました。
最後に、この書面をお借りて一言、荒川さんへの告白の時に失礼なことを言ってしまう、すみませんでした。

新潟県知事と農業者

6団体との懇談会

会長 永塚 崇嗣

11月29日、ANAクラウンプラザホテルにて「新潟県知事と農業者6団体との懇談会」が行われました。

6団体とは、県農業法人協会・県生産組織連絡協議会・県認定農業会・県農業経営者協会・県指導農業士会・県農業士会からなります。それぞれの作物分野で花角知事に現状や意見を述べる発表があり、農業士会からは園芸振興について述べさせていただきました。

私の地域では果樹産地であり、産地の高齢化・果樹生産ならではの問題点をだし、将来的なビジョンよりも現状差し迫った問題点をどうしたらいいか提案しました。

懇親会では幅広い年齢層の中で将来の農業について語り合いました。その中で、花角知事との会話の中で「熱い農業士会の人々などもっと話したい」の一声で、新認定者歓迎会の来賓として快く承諾してくれました。

多くの方たちによって支えられている農業で、それぞれのアンテナが集結する場がこの懇談会となります。今後各々考えていることを出し合い、実践していくことで農業発展につながっていくと感じた懇談会でした。



理事・役員研修会 に参加して

長岡ブロック・副会長

新谷梨恵子

2月18日に新潟公務員・法律専門学校で「理事・役員研修会」が開催されました。こちらの専門学校の方々と出会ったきっかけはSNS。11月末に新潟県内でフラッシュモブをしている人たちがいないか探しているとき、たまに彼らがYouTubeにあげている動画を見つけたことが始まりでした。1月に開催される新認定歓迎会でフラッシュモブをやりたいのですが、協力してもらえませんか？」と突然メールをすると、先生から翌日には返事が来て、「大歓迎です」と快諾！不可

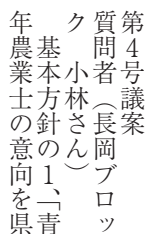


能と思われたフラッシュモブ実現に向けて光が見えた！と大変嬉しかったです。新認定歓迎会まで1ヶ月弱しかない中、学生ならではのフットワークの軽さ、柔軟な発想力、さまざまなアイデアを出してくださり、見事「ニセ取材」と「野菜もしもフラッシュモブ」と成功させてくださいました。

今回の出会いを一度きりにするのはなく今後につなげていきたいと考え「新認定者歓迎会フラッシュモブ大作戦について」農業士と学生とのコラボ企画、今後の可能性を探る」をテーマとして、新潟公務員法律専門学校の学生と理事・役員との意見交換会となりました。

学生とのグループワークの中では、私たち農業士会の活動を知ってもらい、農業士会と学生とのコラボ企画の計画や農業士活動の今後の展望についてのヒントを得ることができました。お互いにとって今回の出会いが自分たちの将来の財産になるよう31年度もいろいろなことを協働できればと思っています。





今までの議案書通り使ったのでこうなっていました。これからも分かりやすい資料作りを心がけていきたいと思ひます。

質問者（新発田ブロック 高橋さん）
平成31年度活動目標（案）の「環太平洋パートナーシップ（TPP）協定が2019年12月に発行され」と書いてあるが、日にち間違えと誤字がある。

誤正誤
……
「発行」
2018年12月
2019年12月

年齢制限については、規約5条に「本会は本会の趣旨に賛同する青年農業士をもつて構成する」となっているのでも、青年農業士に県知事が認定するのに年齢制限があり、その年齢イコール新潟県青年農業士の年齢だと思ふのだが。

一応加入年齢の目安はあるが、意欲のある人であれば年齢を考えずに入って頂けたらと思います。熱心に活動に参加して頂ける方、入るからには10年続けて頂きたいです。



質問者（十日町ブロック 島田さん）
退会予備軍をたくさん抱えている中で、転換期に来ているのではないかと
思います。予算を増やす、収入を増やす
のではなく支出の部でも大胆な値下
げも必要になってくる中で、少しずつ
種を蒔いていかなければならない。そ
れができる役員が今揃っています。新
しい青年農業者を創っていつて貰いた
いと思いますし、収入が減っている中
で役員報酬を上げることが大変なこと
です。皆さんが背負っている期待は大
きいことを理解して運営にあたってい
ただきたいと思います。

（回答） 皆さんの会費のおかげで私たちの役員も動いていきますので、皆さんの期待にに応えられるように頑張つて行きます。皆さんの意見を収集して運営していきたいので、皆さんよろしくお願いします。

平成30年度退会者名簿

ブロック	氏名	氏名	氏名	氏名
新	田本	間清	起	
新	田阿	部直	樹	
新	田小	林孝	治	
新	田平	野信	幸	
新	田竹	内俊	哉	
新	田渡	邊庄	悦	
新	田磯	部智	勇	
新	田真	嶋昌	広	
新	田高	橋和	利	
新	田西	村成	人	
新	田渡	辺義	之	
新	田坂	上雅	昭	
新	田鷺	尾德	敦	
新	田中	野	淳	
新	田金	子友	和	
新	田中	野	智	
新	田渡	辺平	明	
新	田津	権吉	市	
新	田津	阿川	義	
新	田津	関	由	
長	岡駒	野	美	
長	岡山	崎	聡	
南	魚沼	南雲	太	
南	魚沼	山田	旦	
南	魚沼	松井	崇	
十	日町	田中	磨	
上	越園	田岳	彦	



十日町ブロックの活動紹介

十日町ブロック長 島田 福德

6月に三魚沼ブロックの合同現地研修を魚沼・南魚沼ブロックの方々から参加いただき十日町で開催しました。宮澤会員の圃場では旧日本軍が使っていた飛行機用の滑走路を使った栗

園、サルナシ園を視察しました。また、大津会員の圃場では新しい取り組みであるカボチャの説明を受けました。その後、JGAPを取得し枝豆をセブンイレブンに出荷されている苗場高原生産組合様を視察させていただきました。枝豆収穫用のコンバインを使うなどして作業の省力化に努められており、大変勉強になった研修でした。10月には先進地視察研修で「2018農業ワールド」を視察させていただきました。一日という短い時間ではあったのですが、日本の最先端の

野良

魚沼ブロック 関 裕也

今年度の青年農業士会を振り返って、私が士会に入ってから十年になります。最初の五年ほどはほとんど会のことをわからないままブロック内の活動に参加し、時折県のイベントに出る程度でした。多くの会員はそれに近い姿勢で会に参加していることと違います。そんな私があるとき県役員をやらせて頂くこととなり当時はなかなか大変だったものの会を知ることができ結

果、良い経験を積むことができたと思います。入会時に先輩から言われた「農業士会に会費を払う価値は自分で参加して見つけろ」役員を経験してみてもその言葉を実感できました。県内の農業士の集まるこの会はやや他では得られない何かがあると思います。普段会うことのない他の地区の人、全く異なる農産物を生産している人、豪雪地帯からあまり雪の降らない地域まで様々な会員の交流の場です。会員数が減少する近年、多くの会員に会の魅力を知ってもらえたら良いなと思います。

編集後記

長岡ブロック 副会長 新谷梨恵子

まず初めに「農業士会だより」の発行が諸事情により大変遅くなってしまうこと、この場をお借りして心より詫言申し上げます。申し訳ありませんでした。昨年の大滝副会長より「農業士会だよりの発行は1年間の締めくくりの事業」とバトンを引き継いだにもかかわらず、皆様へのお届けが遅れてしまい、ご心配とご迷惑をおかけしてしまいました。総会でも議題として挙げてくださった「農業士会だより」の今後の発行に關してのご意見も真摯に受け止

農業資材などに触れることができ、津南でただ農業をしているだけでは得られない多くの刺激を受け、大変学びの多い視察でした。一日では足りず、次回夜の懇親会も含めた二日間の日程で参加する予定です。12月には定例会を兼ねた大忘年会を行いました。肉を食い、酒を飲み明日への英気を養えた夜でした。その他にも、定例会を重ねる会員同士の情報共有に努め、日々農業に精進しています。

め、今後、より良い形としてバトンを渡していきたいと思います。平成30・31年度新役員体制になり、今までの事業を一新させた変革の1年だったと思います。時代の流れと共に「変化するチャレンスに挑戦すること」そして他の人々と「協働して何かを創造していくこと」がとて重要になってきています。「新潟県農業士会」に在籍できる「今」を十分に楽しみ、ここでの出会いを今後の財産に変え、「農業士」になって良かったと思える時間を共有したいと思っています。そのためには私たち役員が考え、企画した事業に参加して下さる会員の皆様の協力が不可欠となると思います。今日までの事業を一緒に盛り上げ、楽しんでくださった会員の皆様には感謝の気持ちで一杯です。今後の事業も残りわずかなってききましたが、農業士会での時間をより良いものにしていただけますようお願い申し上げます。 「農業士会だより」を発行するにあたり、多くの皆様より執筆・写真提供などご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。 また、新認定歓迎会からご縁の繋がった新潟公務員法律専門学校の皆様、異業種女性ゲストの皆様や農業士の活動に関わってくださった全ての皆様、今回のご縁を今後の農業士活動の中でも続けていくことが出来れば幸いです。多くの皆様に感謝を申し上げ編集後記とさせていただきます。ありがとうございます。

発行所：新潟県農業士会

新潟市中央区新光町十五番地二

(社)新潟県農林公社

青年農業者等育成センター内

電話 〇二五

印刷：和光印刷株式会社

新潟市西区小針一 一一一八

電話 〇二五

一三三三八三三八